

# 2024年9月印刷の月 記念式典

一般社団法人 日本印刷産業連合会



## 2024年「9月印刷の月」記念式典・懇親会を開催

日本印刷産業連合会表彰 [印刷功労賞]12名、[印刷振興賞]15名、  
[特別賞]1団体が受賞

一般社団法人日本印刷産業連合会は(磨 秀晴会長)、2024年「9月印刷の月」記念式典を、9月11日(水)東京・紀尾井町のホテルニューオータニ「鶴の間」に於いて、経済産業省をはじめとする各界からのご来賓や会員10団体、関連業界から多数の出席者を迎え開催した。

「印刷の月」は、会員団体・企業とともに協力し「一般社会の印刷産業への認識を深め、理解の促進を図ることを目的」に、各種の周知・PRによって普及啓蒙活動を推進するため、昭和61年に印刷月間として設定したものである。本年は日本における活版印刷の祖である本木昌造氏生誕200年にあたる。

記念式典では、印刷産業の発展に貢献された個人・団体に対して顕彰する日本印刷産業連合会表彰が行われた。本年度は印刷功労賞12名、印刷振興賞15名、特別賞1団体に授与され、受賞者を代表して滝澤光正氏が謝辞を述べた。

会場を移し行われた懇親会は、瀬田章弘副会長の開会の挨拶とプリプレス&デジタルプリンティング機材協議会の山田周一郎会長による乾杯のご発声によって華やかにスタートした。和やかな雰囲気にもまれるなか、衆議院議員の山田美樹氏と海江田万里氏のスピーチや祝辞が披露された。会話は途切れることなく親睦を深める交流の場となった懇親会は、日印産連 添田秀樹副会長による中締め挨拶で終了した。

### 磨会長あいさつ

記念式典は一同が起立、国歌斉唱によって開会した。開催にあたり主催者を代表し磨秀晴会長が登壇し挨拶を行った。

「会員の皆様ならびに関連業界の皆様には、日頃より格別なご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本日は経済産業省 商務情報政策局の江澤政策統括調整官をはじめ文化創造産業課の皆様にご臨席を賜り、また各会から多くのご来賓の皆様にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

今年も皆さまの多大なるお力添えのもとに「9月印刷の月」記念式典を開催できますことに心より感謝申し上げます。

また本日、印刷産業の発展と印刷文化の昂揚に大きく貢献された方々を顕彰する「日本印刷産業連合会表彰」を受賞された



主催者を代表して挨拶する磨 秀晴会長

皆様に、心よりお祝いを申し上げますとともに、今後の業界発展のために、ますますご活躍されることを祈念申し上げます。

「9月 印刷の月」は、幕末から明治にかけて日本における活版印刷の祖として活躍した本木昌造氏を偲び、その功績を称えるべく命日を迎える9月を印刷月間と定め、印刷産業の普及啓蒙活動を推進してきたものであります。

今年はその本木昌造氏の生誕200年にあたります。ここで今一度、我が国の印刷産業における原点である本木昌造氏の進取の気性やチャレンジ精神に思いを馳せ、激変する事業環境に積極的に対峙して新たな一歩を踏み出す年としたいと考えております。

また、経済産業省で印刷産業を所管いただく部署は、7月1日をもってコンテンツ産業課がクールジャパン政策課と統合し、新たに文化創造産業課となりました。

我々の産業は印刷物の製造にとどまらず、Webや映像などデジタルコンテンツの制作や、データを活用した情報サービス、食品などの包装や建装材の開発、販促グッズの製造からイベント運営、行政サービスの受託など多岐にわたっており、アート・ファッション・エンターテインメント・食・観光・住環境なども含めた我が国の文化創造産業をインフラから支え、情報文化と生活文化の発展に貢献して参りました。

日印産連では現在、印刷産業の持続的な成長を目指し長期的な視点に立って、「2030年の印刷産業のあるべき姿」を見据えた、新たなブランドデザインの策定に取り組んでおります。印刷産業が社会に求められ続ける産業であるために、これまで以上に会員10団体が力を合わせ、新たな価値創出、事業領域の拡大に向けた連携・共創を推進してまいります。

これからも皆様の一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます」とし、ご来賓の方々や会員10団体と関連業界の今後の発展と健勝を祈って結びました。

## 来賓祝辞

続いてご来賓の紹介があり、来賓を代表して経済産業省 商務情報政策局 商務・サービスグループ 商務・サービス政策統括調整官の江澤正名氏から祝辞が述べられた。江澤調整官は、記念式典開催へのお祝いの言葉のあと、「印刷産業の高度化と発展を通じて、我が国産業界全体の発展と国民生活の向上に大きな役割を果たしてこられた貴連合会の皆様、そして長年にわたり印刷産業の発展に寄与され日印産連表彰を受ける皆様に心よりお祝い申し上げます。

印刷産業は商業印刷や出版印刷をはじめとして、私たち身の回りの多くのものに関わっており、その地域の顧客のニーズや昨今の産業構造にあわせた多様な事業展開、多くの製造業、サービス業、サプライチェーンにおける重要な役割・位置を占めると同時に、国民生活を支える重要な産業であると認識しております。その中で、貴連合会傘下の10団体、会員企業約6,000社を束ねる印刷産業界の中心として、紙の印刷産業だけでなく、食品等



壇上の来賓の皆さま

の軟包装資材や建材、さらにはラベルや電子部品といった多岐にわたる関連産業の振興の要となる組織だと考えています。

貴連合会は2030年のあるべき印刷産業の姿を見据え、紙の印刷業という枠を発展的に改め、新たな産業の構築に向けて果たすべきミッションを掲げ、磨会長をはじめとする体制のもとで取り組まれていると承知しております。

昨今、エネルギー価格・原材料価格の高騰や、紙の印刷需要の減少など厳しい経営状況の中で、印刷産業の持続的な成長が成されるよう、経済産業省としても印刷産業を含めたコンテンツ業界、DX支援や省エネ・省力化、生産性向上のための設備投資に支援を行って応援させていただいています。印刷業の枠を超えた新しい価値の創出や、印刷産業全体としての生産性の向上と付加価値創出に取り組んでいただき、我が国経済の牽引役と引き続きさせていただくことを期待しております。

経済産業省は印刷業界の皆様のご協力のもと、昨年3月に下請ガイドライン改訂をしております。貴連合会におかれましても本年6月、労務費の適切な価格転嫁の推進を強く打ち出した自主行動計画を改訂いただきました。今後とも下請取引の適正化に向けて、引き続き取り組んでいただきたいと思います。

全国の各地域に根ざし事業展開されている印刷業界の皆さまの活躍なくして日本経済の成長はありません。今後も地域から日本を元気にさせていただくことを期待しております」と挨拶を行った。



来賓祝辞 江澤正名経済産業省 商務・サービス政策統括調整官

## 2024年度 日印産連表彰・授与式

### ■印刷功労賞

印刷功労賞は団体運営を通じて印刷産業の発展向上に寄与した方に対して授与される。本年は12名(別掲p7～)が表彰され、二組に分かれ登壇し賞状の授与が行われた。滝澤新聞印刷株式会社 代表取締役社長 滝澤光正氏と丸栄有限会社 代表取締役 堀 知文氏がそれぞれを代表し、プレゼンターの磨会長から表彰状を受け取った。

### ■印刷振興賞

業務の進歩改善に著しく貢献された方、多年にわたり業界の指導に貢献された方に贈られる印刷振興賞には、15名(別掲p11～)が選ばれ、二組に分かれ登壇し賞状の授与が行われた。共同印刷株式会社 IT統括本部長 滝口祐美氏と株式会社博勝堂 相談役 渡邊博之氏がそれぞれを代表し、プレゼンターの磨会長から表彰状を受け取った。

### ■特別賞

特別賞は、各種活動を通じて印刷産業界の地位向上に寄与された団体、個人に贈られる。本年は、障がいのあるアーティストの作品を活用したアートカレンダー事業を通じ、障がい者と社会

をつなげる活動を続けている埼玉県印刷工業組合が、団体として特別賞を受賞した。恵 勇人理事長が登壇、プレゼンターの磨会長から表彰状を受け取った。

### ■受賞者代表謝辞

受賞者を代表し、印刷功労賞を受賞した滝澤氏が「日本の印刷産業の祖である本木昌造翁の生誕200年を迎える節目の年に、映えある賞を頂戴いたしましたこと、大変光栄であり名誉なことだと思っております。心より感謝申し上げます。

私は東京新宿区におきまして、祖父が創業し父が継いだ小さな印刷会社に生まれました。20代から地元の印刷組合の青年部に立ち、30代で青年支部の会長を拝命し、それからこの春に全印工連の会長と日印産連の副会長を退任するまで30年近く、まさに人生の半分近くを業界活動に携わって参りました。この間さまざまな出来事があり、私ひとりでこの任を全うすることは到底できないわけで、経済産業省をはじめとする行政機関の皆様、メーカー、ベンダーの皆様、日印産連を構成する他団体の皆様、一緒に汗をかいてきた役員の間、ご指導・ご助言いただいた先輩の皆様、全国の組合員の皆さんの支えがあったからこそ、務めることができました。そして、我が社の従業員のみならず家族の支えもあって今日の私がいるということ、改めて感謝申し上げます。

印刷産業は現在大きな変革期にあり、それぞれが全国各地に

### 印刷功労賞



印刷功労賞 代表 滝澤光正氏



印刷功労賞受賞者の諸氏 (1組目)



印刷功労賞 代表 堀 知文氏



印刷功労賞受賞者の諸氏 (2組目)

において新たなビジネスモデルに向けて懸命に努力を続けていることと思います。けれども、振り返れば日本の印刷産業をここまで育て上げてきた先達の皆さんが、その当時生かせる技術・能力・ノウハウを最大限に生かし、今日まで事業を継続することができたのだと思っております。

今、私たちが置かれている現状は、日本の人口減少や急速なデジタル化によるメディアのデジタルシフト等と様々な課題はありますが、私たちの事業の原点にあるのは、「人々の暮らしを彩り、幸せを作る」「社会にお役に立てるための情報加工サービスを展

開していく」ことであり、この本筋は1ミリたりとも動かないものと思っております。これからの激動の時代において、私たちの印刷産業が健全に発展していくためには、日印産連をはじめとする傘下の業界団体の存在は大きなものと考えております。引き続きこの業界団体の下で正しく集い、私たちの声をひとつに、日本における印刷産業をさらに魅力あふれる業界にしていきたいと思う次第です。私も微力ながら尽力して参ります。本日は誠にありがとうございます」と、謝辞を述べ、会場から祝福を込めた温かい拍手が送られた。

## 印刷振興賞



印刷振興賞 代表 滝口祐美氏



印刷振興賞受賞者の諸氏 (1組目)



印刷振興賞 代表 渡邊博之氏



印刷振興賞受賞者の諸氏 (2組目)

## 特別賞



特別賞 埼玉県印刷工業組合



特別賞 埼玉県印刷工業組合  
恵 勇人理事長



謝辞を述べる滝澤光正氏

## 懇親会

記念式典が滞りなく終了したことが報告され、日印産連副会長の瀬田章弘氏が懇親会開会の挨拶を行った。

「先ほど表彰を受けた皆様、これまでの業界へのご尽力に心より御礼申し上げます。日印産連10団体が集まっている第一の意義は、印刷産業

の地位向上だと思っています。そして、印刷産業の地位向上のために必要なことは二つあると私は考えています。

本木昌造氏は日本で活版印刷を普及、発展させていったわけですが、彼は自分の富や名誉は考えていなかったと思います。我々ももう一度この原点の祖業に帰り、地域・各産業の発展に貢献し喜んでいただいて、「印刷会社・印刷関連会社があってよかった」という産業へと、誇りを持って踏み出さないとはいけません。

もうひとつは、一緒に働いている人たちが幸せになるということです。我々が一致団結し誇りを持って良い商品・サービスを作り、お客様がその価値を認め、共に働いている社員や関連業界の方々が増え、幸せになる。それがあって初めて印刷産業の地位は向上していくと考えます。それには10団体がなくてはなりません。是非、多様性を生かして共に価値を共創していきたいと思っております。」

乾杯のご発声は、プリプレス&デジタルプリンティング機材協議会の山田周一郎会長が務め、「先日行われたdrupa2024国際



開会にあたり挨拶する瀬田章弘副会長

展示会では、デジタルの技術を筆頭にAI、IOTといった新しい技術を活用した新しい製品が各メーカーから出されており、お客様も熱心に見学されていたのも印象的です。私ども協議会も新しい技術を活用して、皆様と一緒にこの業界の課題解決に取り組んでいきたいと思いま

す」の言葉のあと、一同グラスを手に乾杯を唱和、懇親会はスタートした。途中、衆議院議員の山田美樹氏と海江田万里氏が登壇し、記念式典の開催を喜ぶとともに印刷への思いと印刷業界の発展を祈るご挨拶をいただいた。

和やかに歓談が繰り返された会は終盤を迎え、日印産連の磨会長と10団体の各会長が壇上に紹介された。添田秀樹副会長から「先ほど“印刷業は身近にたくさんあって可能性はまだまだある”というご挨拶を頂戴し、私も本当にそうだなと思いながら伺っておりました。この産業に携わる皆さんと一体となって将来に向けて頑張っていきたいと思っております。どうぞ皆さん、よろしくお願いたします」と中締めのご挨拶があり、一本締めで懇親会は終了した。



プリプレス&デジタルプリンティング機材協議会の山田周一郎会長による乾杯のご発声



添田秀樹副会長による中締め

